

リーディングDXスクール事業【実践事例】

石垣市立登野城小学校（沖縄）【指定校】

【取組内容①】子どもたちの主体的な活動を目指した授業改善

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

【共通実践】

1 教師主導の時間を短くし、児童の活動の時間を長く設定する

(1) 目指す児童像を作成・共有

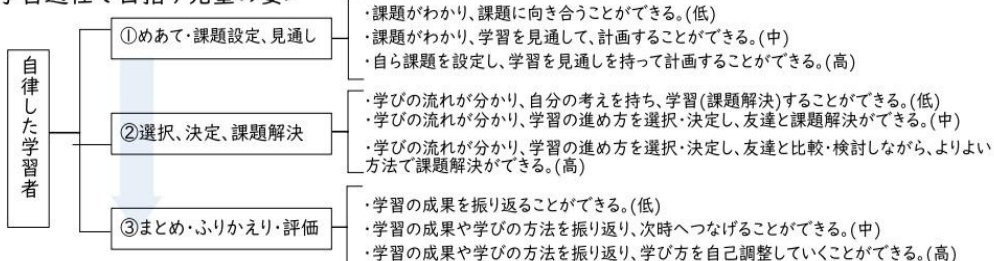
(2) 授業スタイルの共通実践

(3) 自己選択・自己決定の場を増やす

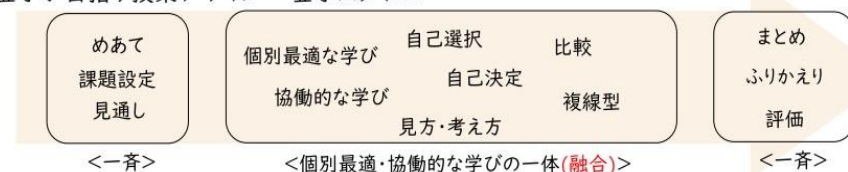
「自律した学習者」

- ① 自ら課題を把握・見出し、(自分なりに)課題解決の見通しを持つことができる。(持つ力)
- ② 学習の仕方(進め方)を選択・決定しながら、自分の学習を調整して学びを進めることができる。(進める力)
- ③ 学習の結果や成果を自己評価して、次の学びへつなげることができる(自己評価する力)(つなぐ力)

<学習過程で目指す児童の姿>



<登小が目指す授業デザイン＝登小スタイル>



授業の様子



「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」

左：担任配布の資料で学習を進めることを選択して問題解決へ
 右：2人で情報収集したことを話し合いながら問題解決へ

<児童の変容：学習者視点>

どのように学ばか、誰と学ばかなど、自己選択・自己決定しながら学習を進める姿が見られるようになった。

自分なりに学習を進め、友達と交流しながら問題解決することが増えた。

<教師の変容：授業改善>

Classroomで学習の見通しを持たせ、教科書や資料集、具体物や端末（動画・その他資料）などを活用して、自分たちで学習を進められるような授業づくりを意識することで、子どもたちの主体的な活動につながった。

また、目指す児童像を共有したことで、児童の活動を意識した授業づくりをすることができた。